

日本共産党 和歌山市会議員

ひめだ高松三門ス

No. 1211

18.7.31

いろいろ和歌山と島くみ人に拍手

7月29日投票の市長選挙の結果は、投票率31.5%、島くみこじんは、28145票(得票率29.25%)を獲得したものの、現職の尾花正昭さんが68081票で当選しました。酷暑の中、様々な取り組みや募金に協力いただいたすべてのみなさんに、お礼を申し上げます。ありがとうございます。

市長選挙の闘いを終えて

いろいろ 和歌山

7月31日(月)のいろいろ和歌山の島くみこじんと市議会の島田事務局長が市議団控室にいらして来てくれました。残念ながら議員は不在でしたが、投票日の開票前に各メディアの要約をまとめたため中間選情的な文書を送っていただきました。その一助をありがとうございます。今回の市長選挙は、和歌山市民の本音のまま

フリートの人々



フリートの人々 (994)

ニシキョウイン
入会費
5000円
年会費
1000円
インストラクター

産家の救済案

一家に平均50万円

多産家庭に優遇策

増税

無子家庭 独身には増税

これが「美しい国」づくりかあ?

に交える歴史的な一歩です。市民参画型選挙では、多彩な才能と強い意思をもった支持者の表情が輝いていました。私たちがいろいろ和歌山に島くみこじんを軸にして、これまで以上に多くの仲間をつながりと連携、深い交流の輪を広げることができました。島くみこじんは言います。「私たちの訴えが、たくさんの方の皆さんの共感として広がっていることを、強く感じました」と。選挙本番を告げるが月間におたしつり以上の街角に直接呼びかけ合っていました。島くみこじんいろいろ

和歌山を励まして支えてくれた個人、市民団体、そして和歌山野党のみなさまをありがとう。すべての関係者の方々にこれから御礼申し上げます。7月29日18時、

今週のフリートの人々

(第157)



「生産性...って?!」

自民党比例の杉田水脈衆院議員が月刊誌で同性カップルを念頭に「生産性を作らない...しまり」生産性「がない」と主張したとの報道。『生産性のない人に公金を使うのはケシカラン』とのこと。広辞苑では、①生産...①生活の資を作り出す仕事。なりわい。②出産。③・④省略。生産性...生産過程に投入された一定の労働力その他の生産要素が生産物の産出に貢献する程度。『と記述。出産しない人ではないーみたいな切り捨てをするこんな人に税の取り方、使い方を決める衆院議員をどうえ、歳費を支給するのって?』生産性がない』のでは?!

1941年、近衛文麿内閣は「産めよ殖やせよ政策」で人口1億人をめざしました。安倍内閣の1億総活躍プランがダブって見える気がします。



ひめだ高松

原水爆禁止 2018 世界大会・広島

8月4日(土)～6日(月) 原水爆禁止2018年世界大会が広島で開催されます。日本共産党市議団から松坂みち子議員が今年も県の代表団に参加します。

核兵器のない平和な世界へ

広島と長崎への原爆投下から73年。世界は核兵器廃絶に向けて画期的な一歩を踏み出しました。

2017年7月7日に、国連会議で核兵器禁止条約が122か国の賛成で採択

転、使用、威嚇など、核兵器に関するあらゆる活動が禁止されました。核兵器に「悪の烙印」が押され、核保有国は条約への調印や批准を拒否しても、政治的・道義的責任が問われることになりました。

これは、1955年の第1回原水爆禁止世界大会以来、被爆者とともに核兵器の禁止・廃絶をもとめてきた私たちの運動の大きな成果です。

松坂みち子は

「この頃は、メールが来るといっようなメールが来て書いてあるままにホームページを開き指示に従い被害にあう人が増えていることを取り上げていました。私のところにもそういうメールが来ていて「何?」と読んでいたのですが、無視して難を逃しました。他にも「又しぶりね」と知り合いを装ってくるもの

携帯電話の番号を送れるショートメールを利用して、知らない方はいくつか。メールで「お届けの荷物があります。佐川急便」



松坂みち子 (県議予定候補)

「当たり前になりました」と喜ばせるようなものなど、手口は多様です。知れない以外のメールは無視するだけで、これに徴するしかありません。くれぐれも注意を。

潮流

ことし100歳を迎えた教育学者の大田先生。いまま「教育とは何か」を問い続けています。▼その大田さんが、丁丁生命誌研究館館長・中村桂子さんとの対談を収めた『百歳の遺言』で

全国学力テストについてこう語っています。「子どもを皆、モノのように扱って、数値の中で束縛してしまう。それで何県が一番になったとかが大新聞の一面に出る」▼文科科学省は近く、今年4月に実施した全国学力テストの結果を公表します。都道府県や政令市の成績が示され、自治体によっては学校ごとの成績公表も。その結果、点数競争が起き、学力テストが最優先課題になります。振り回されるのは学校、教師、そして子どもたちです。▼点数アップのために過去の学力テストの問題を「過去問」を、何度子どもにやらせます。そのためにはほかの授業や行事がとびぬけ、学力テスト実施直前の春休みは宿題漬け。まさに子どもがモノのように数値によって束縛されています。▼文科省はテスト結果に基づいて指導すれば「学力向上」になるといいます。しかし「過去問」を繰り返させることがなぜ「学力向上」になるのか。専門家からも「今のテスト主義は、知識中心といわれ、実は、実際は知識などつけさせていないのではないかと」北野秋男ほか、現代学カテスト批判として疑問が出ています。▼学力テストの点数が上がったからといって、その子が幸せになるわけではありません。文科省さん、こんな全国学力テストはもうやめてはどうですか？

赤旗 日刊紙 497円 日曜版 823円